

伴奏付けの指導方法に関する一考察（1）

A Study of the Accompaniment Teaching Method（1）

（2013年3月31日受理）

松井みさ

Misa Matsui

Key words : 童謡, 伴奏付け, カデンツ

抄 録

ピアノ初心者に対する童謡の伴奏付けの指導方法として、機能声理論に基づく和音連結の型であるカデンツを利用した指導を行なう。左手を、主要3和音を中心としたカデンツの型でグループ分けすることにより、同じ動きの繰り返しと意識付け、左手に対する苦手意識を克服する。3種類のカデンツを繰り返し練習し、自在に弾けるようにすることにより、右手の練習のみで多くの童謡の伴奏付けが可能となる。また、正しい指使いで練習した場合、この左手の動きはハ長調以外の曲においても応用することが可能で、レパートリーの拡大に繋がると考える。

はじめに

保育者を目指す学生にとってピアノ演奏は必ず行なわなければならないものである。中国短期大学（以下本学という）保育学科においても、卒業までの2年間にわたりピアノ演奏が練習できるようにカリキュラムを組んでいる。それと同時に、童謡の伴奏付けについても、授業の中に取り入れ、1曲でも多く弾き歌いできる曲をつくるようにしている。しかし、年々ピアノ初心者の入学生に占める割合が多くなり、市販の楽譜を見ただけでは演奏することが困難になり始めた。筆者は前著「短期大学幼児教育科における即興演奏に関する一考察Ⅱ」において、バイエル教則本と童謡の伴奏形を共用することによって早い段階から伴奏付けを行なう方法を述べた。しかし、ピアノ初心者が増え、かつカリキュラムが多忙を極める中、バイエル教則本と童謡を組み合わせることは時間的に困難になり始めた。そこで本学保育学科では童謡の伴奏付けを中心とした弾き歌いの練習を授業で集中的に行なうことにした。授業で実践している方

法を通して、効果的に伴奏付けを行なうには、どのように指導を行えばよいかを考察する。

弾き歌い練習曲について

本学保育学科で、卒業までに弾き歌いできるようになってほしいと学生に提示している曲を次に挙げる。

アイアイ アイスクリームの歌 あくしゅでこんにちは あめふりくまのこ
 あわてん坊のサンタクロース 一年生になったら いちょうのはっぱ 犬のおまわりさん
 うみ うれしいひなまつり おうま 大きなくりの木の下で 大きなたいこ 大きな古時計
 おかあさん おかえりのうた お正月 おつかいありさん おぼけなんてないさ
 おはながわらった おへそ おべんとうのうた 思い出のアルバム かえるのがっしょう
 かごめかごめ かたつむり かわいいかくれんぼう きくのはな きらきらぼし
 げんこつやまのためきさん こいのぼり こおろぎ ことりのうた さんぼ しゃぼんだま
 ジングルベル ぞうさん たきび たこの歌 たなばたさま ちゅーりっぷ 手のひらを太陽に
 手をたたきましよう てをつなごう とけいのうた トマト どんぐりころころ
 飛んでったバナナ とんとんともだち とんぼのめがね にんげんていいな バスごっこ
 ふしぎなポケット ぶんぶんぶん まつぼっくり 豆まき むすんでひらいて めだかのがっこう
 もみじ 森のくまさん やきいもグーチーパー やぎさんゆうびん ゆうやけこやけ ゆき

これらの64曲が弾き歌いできればそれでいい、というわけでは決してないが、最低限上記の曲くらいは弾けるようになって卒業してほしい、と考えて選んだ曲である。

つぎにこれらの曲を、曲の長さ、一般的に伴奏として

使われる和音の種類、旋律のリズム等を考慮して、難易度別に三つのグレードに分けた。以下にグレード別の曲目を記す。

グレードA

あくしゅでこんにちは いちょうのはっぱ おうま 大きなくりの木の下で 大きなたいこ
 おかえりのうた おべんとうのうた かえるのがっしょう かごめかごめ かたつむり
 きくのはな きらきらぼし げんこつやまのためきさん しゃぼんだま ぞうさん
 たきび たこの歌 たなばたさま ちゅーりっぷ 手をたたきましよう てをつなごう
 とけいのうた トマト どんぐりころころ とんぼのめがね ふしぎなポケット
 ぶんぶんぶん まつぼっくり 豆まき むすんでひらいて もみじ やきいもグーチーパー

グレードB

あめふりくまのこ うみ お正月 おつかいありさん おはながわらった 思い出のアルバム
 こいのぼり こおろぎ ことりのうた てをつなごう とんとんともだち めだかのがっこう
 森のくまさん やぎさんゆうびん ゆうやけこやけ ゆき

グレードC

アイアイ アイスクリームの歌 あわてん坊のサンタクロース 一年生になったら
 犬のおまわりさん うれしいひなまつり 大きな古時計 おかあさん おぼけなんてないさ
 おへそ かわいいかくれんぼう さんぼ ジングルベル 手のひらを太陽に 飛んでったバナナ
 にんげんていいな バスごっこ

授業の中では、グレード順に数曲ずつ練習を行ない、半期の授業が終わるまでには初心者でもグレードBまで到達するように目標を定めている。

伴奏付けの方法について

授業での目標は、弾き歌い、すなわち歌いながらピアノでその曲が演奏できることであるが、その前提として、右手で旋律、左手で伴奏が演奏できることが挙げられる。そこで、ここではまず伴奏付けが正しくでき、両手で演奏できることを目標とする。

前章でグレード別の曲目を表示したが、ピアノ初心者にとっては、グレードAの曲でも演奏が困難な学生も存在する。そこで、あらかじめ一般的な和音進行を練習して伴奏付けに応用できるようにする。一般的な和音進行として、ここでは「和声 理論と実習」（音楽之友社）で示されている機能と声理論に基づく和音連結の型である3種類のカデンツを取り上げる。すなわち

カデンツ第1型 T-D-T

カデンツ第2型 T-S-D-T

カデンツ第3型 T-S-T

の3種類である。Tはトニック、Dはドミナント、Sはサブドミナントの機能を持つ和音であるが、ピアノ初心者を対象とした伴奏付けであるため、主要3和音を中心に考え、TはIの和音、DはVの和音（またはV7の和音）、SはIVの和音をそれぞれ対応させる。その結果次のようになる。

カデンツ第1型 I-V(V₇)-I

カデンツ第2型 I-IV-V(V₇)-I

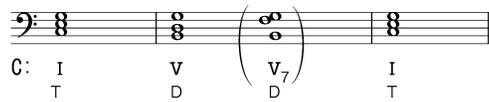
カデンツ第3型 I-IV-I

この3種類のカデンツを左手で演奏するとした場合、次のようになる。（図1）

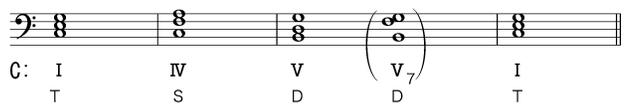
なお、VとV₇の和音の使い分けであるが、半終止の箇所はV、完全終止の箇所はV₇というのが原則ではあるが、この2種類の和音を適切に使い分けるのは、ピアノ初心者でなくてもなかなか困難である。授業においては、初心者の場合Vの和音に統一して指導を行なっているが、3和音を左手で弾いた場合、学生によってはV₇のほうが弾きやすいという意見を聞く。したがって以下の説明ではVで統一するが、学生の技術によってはV₇

で指導することもやむを得ないと考える。

カデンツ第1型



カデンツ第2型



カデンツ第3型

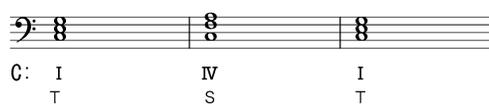


図1

この形を基本として、学生個々に応じて様々な伴奏形に応用する。

例えば、3和音を同時に押さえることが困難な学生のためには2音で演奏させたり（図2）単音で演奏させることも可能である。（図3）

カデンツ第1型



カデンツ第2型



カデンツ第3型

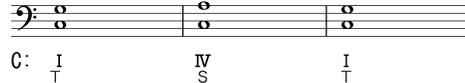


図2

カデンツ第1型



カデンツ第2型



カデンツ第3型



図3

図2で示した伴奏の場合、基本的には左手の親指と小指で演奏することを前提としている。これは、ピアノ初心者を指導しているとき、親指と小指の2音は比較的容易に演奏できたが、そこに中指が入って3音になった時、人差し指や薬指も鍵盤を押さえてしまい、3音のみ押さえることが困難な学生がいたことからである。経験を重ねていく中で2音のみの伴奏でも、どの2音を選べばよりよい伴奏になるか、より豊かな響きが得られるかを考える機会を与えることができれば、学生の学びに繋がるだろう。さらに、単音での伴奏についても同じことが言える。カデンツ第1型の場合、単音での伴奏はその音のみでも可能である。(図4) ピアノ初心者の中でも特に苦手意識の強い学生の場合、左手をあまり意識せず、右手の旋律に集中できるので、この方法は有効である。しかし、ある程度童謡の演奏経験を積んだ学生には、同じ単音でも図3で示したように根音を演奏させるか、ベースラインを考えた音を演奏させる方がより音楽的と考える。(図5)

カデンツ第1型



図4

カデンツ第1型



図5

カデンツを利用した指導方法

筆者は前著「短期大学幼児教育科における即興演奏に関する一考察Ⅱ」においては、コードネームを利用した伴奏付けについて授業への応用を説いた。実際に授業で学生に説明・実践したところ、ハ長調においては多くの学生がコードネームでの演奏ができるようになった。しかし、ハ長調やト長調など、ハ長調以外の曲の場合、コードネームだと音のみを意識してしまい、和音の機能を全く考えないまま演奏してしまうことが多いことに気がついた。つまり、Cのコードが書いてあれば、それがハ長調の曲だろうと、ハ長調の曲だろうと、ト長調の曲だろうと左手はc e gの和音を押さえてしまうのである。そこには図1で示されたIVの和音としてのFや、Vの和音としてのGに見られるようなIの和音を中心とした転回形は見られず、ハ長調のIの和音として覚えたCを押さえているにしか過ぎない。これでは和音の機能を全く無視した伴奏になってしまう。実際には、多くの学生はその調における和音の機能を感覚的にしか捉えていないと思われるが、その調の中心音や中心になる和音つまりIの和音は感覚的であれ、理解しておくべきだと考える。そこで、和音の機能を重視した方法であるカデンツを利用して、学生に伴奏付けを指導しようと考えた。

しかし、実際の授業では、カデンツの練習に多くの時間を取ることは困難である。1曲でも多く童謡を弾けるようにするためにはカデンツの練習を行ないつつも、実践的な曲を練習しなければならない。そこで先に挙げたグレードAの曲を、さらに使用されているカデンツ型で6種類に分ける。なお、この分け方は、あくまでピアノ初心者に対する考え方で、使用している和音もできるだけ主要3和音のみにしている。さらに通常ドミナントとして考えるIの第2転回形-Vの進行もここではそのままI-Vとして考えている。これについては、ピアノ中・上級者や初心者でも、ある程度経験を積んだ学生にはドミナントとしての機能を正しく教え、第2転回形を演奏できるようにするべきだと思う。

1) カデンツ第1型のみ

あくしゅでこんにちは かえるのがっしょう
かたつむり 手をつなごう ふしぎなポケット
ぶんぶんぶん

2) カデンツ第1型と第3型

いちょうのはっぱ 大きなたいこ
おかえりのうた おべんとうのうた
きらきらぼし しゃぼんだま ぞうさん
たきび たこの歌 たなばたさま
ちゅーりっぷ とけいのうた まつぼっくり
豆まき もみじ

3) カデンツ第1型と第2型

やきいもグーチーパー

4) カデンツ第2型と第3型

手をたたきましょう

5) カデンツ第1型, 第2型, 第3型

大きなくりの木の下で きくのはな
どんぐりころころ とんぼのめがね
むすんでひらいて

6) その他の和音を含む

かごめかごめ げんこつやまのたぬきさん
トマト

授業でピアノ初心者に伴奏付けを指導する場合、まず1) のカデンツ第1型のみを使用している曲から演奏する曲を選ばせる。例として「かえるのがっしょう」の楽譜を提示する。(図6)

かえるのがっしょう

The musical score for 'かえるのがっしょう' is presented in two staves. The top staff shows the melody line in treble clef with a 4/4 time signature. The bottom staff shows the bass line with chords: I, I V I, I, I V I. The melody consists of quarter notes and rests, with a final quarter rest at the end of the piece.

図6

「かえるのがっしょう」の場合、右手は主音からの音階進行になっており、曲全体を通して順次進行が大部分である。さらにリズムも4分音符と4分休符のみで、長さも8小節と短い。ピアノ初心者が最初に弾く童謡として、取り組みやすい曲と思われる。この曲が演奏できるようになったら、次も1) から同じカデンツ第1型のみで演奏できる曲を選ばせる。学生の進度によって、曲の長さやリズム等無理のない曲を選ぶ。例として「ぶんぶんぶん」の楽譜を提示する。(図7)

ぶんぶんぶん

The musical score for 'ぶんぶんぶん' is presented in two staves. The top staff shows the melody line in treble clef with a 2/4 time signature. The bottom staff shows the bass line with chords: I V I V I. The melody consists of quarter notes and quarter rests, with a final quarter rest at the end of the piece.

図7

「ぶんぶんぶん」は前の「かえるのがっしょう」に比べて12小節と長く、リズムも8分音符が含まれている。しかし、2/4拍子であること、ABAの形式をとっていることなどから、比較的容易に弾けると考える。

左手は2曲ともカデンツ第1型のみなので、2つの和音(I・V)が弾ければ演奏できる。つまり学生の意識は右手に集中できる。右手のみ練習すれば弾けるようになるという思いは学生の練習意欲の向上にも繋がると思われる。こうして1) から数曲練習した後、2) のカデンツ第1型と第3型の曲を練習する。学生は、カデンツ

第1型は弾けるようになっているので、新たに練習するのはカデンツ第3型のみである。こうして3種類の和音を自在に弾けるようになれば、右手を練習するのみで新しい曲が弾けるようになると考える。ここまでで、グレードAの曲31曲中21曲演奏できることになる。

他調への応用について

カデンツを練習することにより多くの曲が演奏できるようになる、と具体的な曲数を上で述べたが、この場合、ハ長調での演奏が前提になっている。しかし、実際の曲は幼児が歌う場合の音域を考慮しているので、必ずしもハ長調ばかりとは限らない。先のグレードAの表の中でも、「大きなたいこ」「きらきらぼし」「ぞうさん」「たこの歌」「たなばたさま」「トマト」「ふしぎなポケット」「まつぼっくり」などは一般的にはハ長調以外の調で演奏されている。しかし、3種類のカデンツを左手できちんと演奏することができれば、その形をハ長調以外の調に適用することができる。この場合、正しい指使いで弾くことが前提になる。(図8)ハ長調のカデンツが正しい指使いで演奏できていれば、その手の形そのまま他の調のカデンツが演奏できる。注意しなければならないのは黒鍵の扱いであるが、この点のみ気をつければ童謡などに多く使われているへ長調、ト長調、ニ長調くらいまでの調はすぐに演奏できるだろう。大切なのは、すべての基本であるハ長調のカデンツを、正しい指使いで正確に弾くことができるようにすることだ。正しい指使いが覚えられれば、他の調を演奏する時も正しい音に指が自然と動くようになる。

カデンツ第1型



カデンツ第2型



カデンツ第3型



図8

まとめと今後の課題

ピアノ初心者には、いかに効果的に伴奏付けを指導するか、毎年試行錯誤を繰り返しながら授業を行なっている。本考察で述べたカデンツを利用して学習させる方法は、前著「短期大学幼児教育科における即興演奏に関する一考察Ⅱ」で述べたバイエル教則本を利用して伴奏型を学習させる方法の前段階として実施すれば、より高い効果が得られると考える。

問題点としては、本稿を書くきっかけにもなったコードネームを利用した伴奏付けと、機能と和声でもあるカデンツを連動して教えることが短時間では困難な点である。曲に書かれているコードネームを見ただけでその調のカデンツを思い浮かべることができるようになれば、さらに演奏の幅が広がると考える。今後の課題として取り組みたい。

参考文献

- ・松井みさ：短期大学幼児教育科における即興演奏に関する一考察Ⅱ 中国学園紀要 第3号 (2004)
- ・島岡譲 他：和声 理論と実習Ⅰ 音楽之友社 (1964)
- ・新訂 標準音楽辞典 音楽之友社 (1991)
- ・森田百合子 他：幼児の音楽教育 表現◆音楽 教育芸術社 (2001)